

**「渡良瀬遊水地は東京から1時間半。のんびりと豊かな自然に出会う旅。」
をテーマに、動画を制作します。**

東京には無い、雄大で豊かな自然、アクティビティ、土地の歴史、特産物の飲食といった、独自の「体験」の要素を渡良瀬遊水地は持っています。

一人旅の訪日外国人の目を通して、「こんな体験をしてみたい」という映像を目指します。





一人旅の女性バックパッカーが、
東京の喧騒から離れて電車に乗り込む。
扉が開くと、渡良瀬遊水池の雄大な光景が広がり、
ゆったりと散策を始める...。
女性のモノローグに合わせて、旅の様子を
ドキュメンタリーテイストの映像で演出します。

◆動画概要

全体時間...5分程度

音声...英語

字幕...英語・日本語

公開・展開イメージ（例）

- ①自分たちで運営するオウンドメディアであるWEBサイトへの掲載（渡良瀬遊水池のポータルサイト及び事務所、自治体HP）やYouTubeチャンネルへの投稿、SNSでの発信等
- ②外部インバウンド向けメディア（ジャパンガイド等）を活用した動画の告知、①のオウンドメディアへの誘導
- ③観光案内所や博覧会等での動画放映等

◆撮影内容

概要...渡良瀬遊水池、谷中湖のドローン全景

治水・利水の機能...ガイドの解説、旧谷中村遺跡、熱気球からの景色（越流堤、排水門等）

自然...ヨシ原の風景、野鳥観察（コウノトリ）

アクティビティ...レンタサイクル、ウォーキング（散策）、気球

施設・伝統文化...野木町煉瓦窯、東武日光線

東京の都会の風景



冒頭はテンポよくカットをつないで、
タイトルカットへとつなげます

主観目線で見える電車の車窓
駅の風景



♪BGM in

英語NA)
東京の喧騒から離れて、
電車で1時間半。

豊かな自然が広がる
「渡良瀬遊水地」に
やってきました。

谷中湖のドローンカットに
タイトル



Watarase-yusuichi

広大なヨシの草原をサイクリング



コノトリなどの野鳥
※撮影状況により
写真素材活用



遊水池の案内をする
ガイドさん



気球体験の様子

重要文化財の野木町煉瓦窯で
伝統と文化に触れる



英語NA)

こんなに気持ちの良いところが
東京から近くにあるなんて知らなかった。

ラムサール条約に登録された美しい風景が広がるこの場所では、
コウノトリなど様々な野鳥に出会うことができます。

地元のガイドさんによると、
渡良瀬遊水地は、洪水から地域を守る「治水」と、
首都圏に水を送る「利水」という2つの大きな役目を
持っているそうです。ラムサール条約に登録された国際的に
重要な水鳥の生息地でもあるんですって。

英語NA)

国内の気球の聖地としても有名なこのエリア。
私、生まれて初めて気球に乗ってみました。

ゆらゆらと上空から眺める谷中湖は
ロマンチックなハート型。
川と調節池の水量をコントロールする
水門も見えます。スケールの大きさにビックリ。

英語NA)

遊水地の近くには、国の重要文化財も残っていました。
世界的にも珍しい煉瓦窯です。
遊水地の土を利用してここで赤煉瓦が作られ、
それが河川で東京に運ばれて、
日本の近代化を支えたそうです。

朝焼けの遊水地の風景や

幻想的な秋の風景

※撮影状況により写真素材活用



英語NA)

まるで絵画の世界に入り込んでしまったような幻想的な風景。

ゆったりとした時間と心地よい風を感じられるこの場所を、私はすっかり気に入ってしまいました。

【支給素材の写真】

フォトジェニックな写真を見せて、春や夏の渡良瀬遊水地の見所を伝える



ヨシの野焼き (3月)



遊水地の桜 (4月)



美しいヨシの草原

英語NA)

春には、ダイナミックなヨシ焼きや桜並木、新緑の草原などまた違った景色が見れるそうです。

夕暮れの谷中湖の風景に
エンドコピー



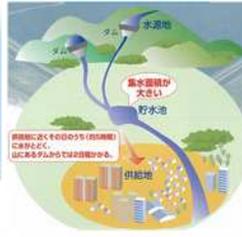
エンドコピー)

渡良瀬遊水地。東京からも近く、豊かな自然と歴史を感じられる場所。

渡良瀬遊水地とは治水・利水施設



▲洪水時 (平成27年9月 関東・東北豪雨)



英語コピー

渡良瀬遊水地は3300haもある日本最大の遊水地です。

遊水地のはたらき
治水・利水



英語コピー

雨量が多い時は、首都圏最大の河川、利根川につながる渡良瀬川の水を遊水地に溜め込み、洪水を起こさないようにするという大切な役目も担っています。水を貯める3つの調節池にはそれぞれ排水門があり、この門から水を河川に排出します。ハート型の谷中湖は貯水池になっていて、山のダムより早く東京に水を届けることができます。

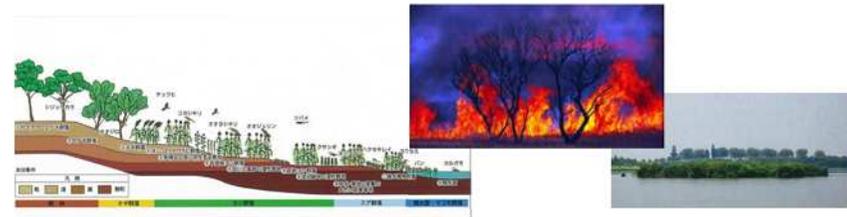
遊水地の歴史



英語コピー

かつてこの地域には谷中村という村がありました。人々は水害対策を行い、農業や漁業、養蚕などを営み、豊かに暮らしていました。1900年頃、近隣銅山からの産銅量の増加によって水源の森が乱伐されます。その結果、洪水や鉱害の被害が広がり、川の氾濫を防止するため、この地域を遊水地として整備することになりました。この遊水地は、谷中村の人々の協力によって完成したのです。

遊水地の豊かな自然



英語コピー

渡良瀬遊水地は、国際的に重要な日本最大の湿地として「ラムサール条約」に登録されています。チョウヒなどの猛禽類をはじめとする鳥類と、約1000種類の植物が生息する自然の宝庫です。毎年冬に行われる「ヨシ焼」は、良質なヨシを育てるために実施し、春の植物の芽生えにも役立っています。

エンドロール

渡良瀬遊水地は、東京からのアクセスも良好。この貴重な自然と風景は、厳しい自然と共生してきた日本人の知恵と技術が一体となって作り上げられたのです。